わかば通信

東海村議会議員 **越智たつや** 議会報告

第40号
平成30年1月発行

発行人：**越智たつや後援会**
日立市幸町２－１３－６
（日立製作所労働組合 日立支部内）
ＴＥＬ　０２９４(２６)０１８３
ＦＡＸ　０２９４(２６)０１８６

謹賀新年

新年を健やかにお迎えのことと存じます。

昨年は、東海村長選挙や東海第二発電所の運転延長申請への対応など大変慌しい1年でしたが、皆さまの温かいご支援のおかげで、無事に難題を乗り越え穏やかな新年を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

本年は平成20年の初当選以来、ちょうど10年の節目を迎える年となります。これまで以上に村民の皆さまのご意見に耳を傾けながら、東海村をより良い方向に導けるよう行動して参ります。引き続き、皆さまのご支援宜しくお願い申し上げます。

越智辰哉

NEWS ～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ～

東海駅西口の再整備を進めています

JR東海駅西口を含む駅西地区の区画整理事業は、事業開始から40年以上が経過し、残るは駅西広場のみとなっています。

そこで、駅前広場に関する利用状況などを精査したうえで、施設規模の見直しや老朽化対策を兼ねた「東海駅西口広場再整備事業」が7月からスタートしました。本事業では、駅西地区の市街地活性化の観点や「いばらき国体」が開かれる笠松運動公園への玄関口に相応しい駅前の形成を図る整備方針となっています。

現状は、シンボルツリーであるモミの木が設置されるなど、新たなロータリーの形状が整いつつある状況であり、今年度中に第1期工事が完了する予定です。

新しく生まれ変わる駅西口が、多くの村民・利用者の方々に親しまれる空間になることを願っています。

TOPICS ～ 「越智たつや」の活動内容の一部をご紹介します ～

活動速報はホームページに掲載しています　http://www.garan.ne.jp/ochi

◀11月6日　アイダホー般訪問団対応（白方小学校）

姉妹都市であるアイダホフォールズ市から一般訪問団14名が来村。受入行程の一環として、白方小の児童たちとの交流の機会があり、参加してきました。

児童との給食の時間では、１年生の子どもたちと一緒に食事を食べ、楽しい時間を過ごしました。抹茶揚げパンがとても美味しかったですね。

◀12月２日　育児用品交換会

村社会福祉協議会が歳末チャリティ事業として実施した「育児用品交換会」の様子を見学してきました。

村民から寄付として集まった品数は、子ども服から玩具、ベビーカーなど約2,000点にのぼり、当日は約500名が参加して、会場は大賑わいでした。子育て世帯が多いといわれる、東海村ならではの光景だと感じました。

編集後記

12月2日の育児用品交換会。我が家で眠っていた子ども用品も数点提供させて頂いた。

当日、ごった返す会場の一角で多くの品物の中から我が家の思い出の品を手にして自宅へと持ち帰る女性を発見。思わず、「それは、うちの子が使ったものです。貰ってくれて有難うございます。」と声を掛けてみた。何だか互いに嬉しい気持ちになった。

単なる育児用品のリサイクル。譲った人と貰った人とが「つながる」きっかけが作れないものか？さっそく、IT関係に詳しい知人と新たな仕掛けである「マッチングツール」について検討を始めた。

人と人との「つながり」をより深めるためのきっかけづくり。これまでずっと活動のテーマにしてきたヒントが、今回の育児用品交換会から見えてきた。

平成30年はぜひ、これを形あるものにしたい。

（S）

VOICE ～ リレーで綴る村民の声 ～

▲ 実家の前より臨む全面雪に覆われた裏大山

妹尾 誠さん（南台団地在住）

昭和55年3月から東海村南台団地に新築した我が家に入居。入居当時、長男は6歳、次男は4歳という時期でした。東海村に居を構えるきっかけは、我々夫婦の田舎である鳥取県の大山（だいせん）山麓と似た環境だと感じたこと。

ただ現状、南台団地周辺を散歩しても小さな小川でメダカを見れないのが非常に残念。この我が家の第二の故郷東海村に望むのは、小川へのメダカの復活。

越智議員には、この取り組みをお願いしたい。将来の東海村の子ども達のためにも。

年賀状の送付は、公職選挙法により規制されていますので本紙にて、新年のご挨拶とさせていただきます。

水道料金改定の条例案を可決

平成29年12月定例会を12月1日から12月20日までの会期で開きました。

今議会では、平成30年度からの水道料金改定に関する条例案など全10件の議案について慎重審議し、全て原案どおり可決しました。

水道料金の値上げについて

本村における水道事業の健全な経営と浄水場等の設備の適正な維持管理を行うため、定期的に料金改定を実施しています。

今議会において示された平成30年4月からの水道料金の改定案は、平均改定率9.03%であり、4人家族で年間約4,000円の値上げとなります。

震災以降、住民の節水意識の高まり等は認識するものの、水道管路の耐震化促進など、将来にわたって安心・安全な水道事業を継続していくために、必要な措置であると判断し、賛成しました。

東海第二発電所運転延長申請を提出

日本原子力発電(株)は、11月24日、運転開始からほぼ40年が経過する東海第二発電所の運転延長を国に提出。12月1日の議会全員協議会において、この内容について同事業所から説明を受けました。

国の新規制基準の適合性審査が大詰めを迎えていることから、今後の発電所の動向を注視するとともに、広域避難計画の実行性確保に向けて、引き続き提言していきたいと考えます。

(仮称)歴史と未来の交流館建設 次のステップへ進むことを了承

交流館の整備については、年度当初予算において、実施設計費そのものは認めるものの、住民への理解促進が不足しているとして、予算執行の付帯決議を全会一致で可決。事実上の予算留保が続いていました。

その後、本事業に関する住民広報の強化や、交流・体験機能の充実に関する住民アンケートなどを実施したこと等を受け、議会として次のステップである実施設計に進むことを了承しました。

今後も、より多くの住民に親しまれる施設となるよう、特に交流機能の具体策がどのような形で盛り込まれるのか、注視していきます。

議会質問を行いました

空き家対策を推進するエリアを特定し、取り組みを強化しては？

公平性の観点での整理が必要

Q. 空き家対策として、空き家を解体・除去する費用の一部を助成する自治体も見受けられる。
空き家を増やさない施策として、導入する考えはないか?

A. 現在は、村内221件の空き家所有者に対して、「実際に対象の建物を使用しているか否か」などを質問するアンケートを送付して、所有者の方々の今後の意向を確認する予定である。

なお、個人が所有する財産の解体に要する費用に税金を投入するための整理が必要である。現時点においては、所有者の方々が今後、空き家をどうしたいのかという意向が確認できていない状況でもあり、制度導入の判断は難しい。

Q. 大規模な団地あるいは市街化区域などは、すでに村が税金を投入してインフラを整備した地域であり、こういう地域で空き家が増えることは効率的な行政運営の視点では不本意である。全村的な空き家対策ではなく、エリアを特定したうえで、空き家対策を進めていくような考えはないのか?

A. 特定の地域に対しての支援についても、公平性の観点での整理が必要であり、現時点では難しいと考える。

東海病院の看護師確保の現状と今後の課題は？

現時点で看護師の顕著な不足は無く、必要な人員が確保できている状況である。

Q. 県内の医療機関では、医師の確保もさることながら、看護師確保も大きな課題となっている。村立東海病院の看護師確保の現状と今後の課題は?

A. 茨城県では、人口10万人に対する看護師数が全国44位と低くなっており、看護師が恒常的に不足した状況となっているが、村立東海病院においては、看護師の顕著な不足は無い。ただし、今年度内の退職者が10名となるなど、一時的に減少する見込みであるが、業務への影響が出ないよう、看護師の確保に努力していく。

Q. 今年度中に看護師10名が退職するとのことだが、何か急激に環境が変化したのか? また、病院の運営を委託している地域医療振興協会のスケールメリットを活かした看護師の確保策はあるのか?

A. 退職する10名の看護師は、揃って退職するわけではなく、順次退職するため、その都度確保に向けた取り組みを進めていることから、今後も必要な人員は確保できる見込みである。

また、地域医療振興協会は、福利厚生面が整っているため、このような側面もスケールメリットとして看護師確保に寄与していると考える。